



九谷焼腕時計「キリギリス文」 作家:山下一三 価格:126,000円 お問合せ:製造・販売/加賀九谷陶磁器協同組合 TEL.0761-74-5437
アフターサービス/九谷焼時計本舗 高間時計店 TEL.0761-76-1036 <http://www.takamatokei.com>

表紙・裏表紙写真 タカヤナギユタカ
表紙撮影場所 大聖寺 やもりもや(旧中木邸)
裏表紙 旧大聖寺川沿い

加賀日和

vol.11

CONTENTS



P03

これが欲しい! 九谷焼の腕時計

P04

エッセイ「愛しの南加賀」 家守クラブ代表 齋藤雅宏さん

P06 大聖寺。あるもの探しの小さな旅。

P28

南加賀「喰いもん放浪記」 加賀市 スパイス

P30

加賀の道楽

P32

立ち寄り湯手形

身につける九谷焼

九谷焼の腕時計



「腕時計に対する姿勢は、恋人に対する姿勢と同じ」なんだそうだ。一つの腕時計を肌身離さずつけている人、何種類もの時計をアクセサリ代わりにつける人、全然つけてない人。

気に入った一つの時計をずっと使い続ける人は恋人にもそのような姿勢。たくさん買い集めてとつかえひっかえ使う人は、恋人にもそのような姿勢。電池が切れると次のを買いたくなる人は、恋人にもそのような姿勢(?)ということか。

機械式の時計が誕生したのは14世紀。腕時計の誕生は19世紀後半。初期の腕時計は女性のアクセサリとしての時計付きブレスレットだったのが、やがて軍隊用に実用品として腕時計が広まったらしい。

それが今では、携帯電話を時計代わりにする人が多く、時計は実用品としてよりも、自分の趣味趣向を表現するアクセサリとしての意味合いの方が大きいかもしれない。

この九谷焼の腕時計もやはり実用品と言うよりはアクセサリと言った方が

が良いだろう。
「腕時計とは小宇宙だ」という言葉を聞いたことがある。誰から聞いたのか、あるいは何かの本で読んだのかは覚えていない。

文字盤の直径35ミリ。その小さな宇宙の中に、加賀九谷陶磁器協同組合に所属する九谷焼作家35人がそれぞれに個性溢れる色絵付けをほどこし、今回は限定100個を世に出した。ケースは色絵を引き立てるシンプルなステンレスの削り出しにサファイアガラス。裏面には大聖寺藩の棒梅鉢紋にシリアル番号が刻印されている。

写真の時計は、『加賀日和』2号で紹介した山下一三さんの作品(作品名「キリギリス文」)。
なるほどよく見ると、絵柄がキリギリスに見えてくる。一三さんらしい色合いと絵柄、そしてネーミングだ。

加賀の陶工による手作りのものだから量産できるものではないし、価格も誰もが気軽に買えるものではないけれど、身につけることができる九谷焼。良いじゃないですか。

ちなみに身につける(服につける)、多分史上最最小の九谷焼だろうと思われ九谷焼ボタンなんていうのもあります。(今月号の本誌34ページ)